

第十六回宗像大社

献詠短歌大会

福岡県知事賞に

渡邊 勇氏 門司区



昭和四十六年の遷宮を奉祝する記念神賑行事として開催されている、宗像大社献詠短歌大会(主催|宗像大社、協賛|福岡県、福岡県教育委員会、宗像大社、玄海町教育委員会、宗像大社氏子会)が、十一月七日(土)当大社清見殿に於て午前十一時より盛大に開催された。

今年で十六回目を迎えた本大会は、歌会々長に河野幸人氏が就任、選者の久野喜衛門先生の後任に池田富三先生が就任されるなど、新体制で臨んだ。例年通り百数十名が参加し、熱気に溢れた大会となった。

大会に先立ち、道徳の発展と、参加者の無病息災を祈念して、献詠神事を斎行し

た。神事終了後大会に入り、養父宮司の挨拶に続き、選者の池田先生による「百人一首講話」と題した講演を行っていただいた。社員後、選者の先生方の自己紹介がなされた後、藤田氏(宗像大社歌会副会長)の司会により、相互賞、先方による批評が約二時間半に亘り緊張した雰囲気で行われた。その後、本大会の選考方法の説明があり、入選歌及び入賞者の発表、表彰式が執り行われ、午後四時には全ての次第が無事終了した。次のおりです。

※大会開催規約により当日正午迄の出場者を入賞とする(得票数上位の方でも入選の資格なし)

- (選者賞)
- 一席 福岡県知事賞 門司区 渡邊 勇
 - 二席 宗像大社歌会々長賞 中門市 勝原たか子
 - 三席 玄海町教育委員会賞 遠賀郡 白木 昭子
- (互選賞)
- 一席 宗像大社歌会々長賞 宗像市 次山 克子
 - 二席 宗像大社氏子会長賞 玄海町 占部 元子
 - 三席 玄海町教育委員会賞 遠賀郡 白木 昭子

- 四席 福岡県教育委員会賞 田川郡 永井古乃美
- 五席 宗像大社賞 福岡市 立花 勇雄
- 六席 毎日新聞社賞 宗像市 力丸 一郎
- 七席 毎日新聞社賞 宗像市 今村 重夫
- 八席 毎日新聞社賞 宗像市 八波 五月

- 九席 宗像市 藤崎 辰子
- 十席 宗像市 有田ゆり子
- 十一席 宗像市 藤崎 辰子
- 十二席 宗像市 藤崎 辰子
- 十三席 宗像市 藤崎 辰子
- 十四席 宗像市 藤崎 辰子
- 十五席 宗像市 藤崎 辰子
- 十六席 宗像市 藤崎 辰子
- 十七席 宗像市 藤崎 辰子
- 十八席 宗像市 藤崎 辰子
- 十九席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十席 宗像市 藤崎 辰子

- 二十一席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十二席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十三席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十四席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十五席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十六席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十七席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十八席 宗像市 藤崎 辰子
- 二十九席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十席 宗像市 藤崎 辰子

- 三十一席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十二席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十三席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十四席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十五席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十六席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十七席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十八席 宗像市 藤崎 辰子
- 三十九席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十席 宗像市 藤崎 辰子

- 四十一席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十二席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十三席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十四席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十五席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十六席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十七席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十八席 宗像市 藤崎 辰子
- 四十九席 宗像市 藤崎 辰子
- 五十席 宗像市 藤崎 辰子

奉納盆栽展開催

第十五回宗像大社秋季



去る十一月十一日より十五日まで五日間、恒例の宗像大社秋季奉納盆栽展が開催された。内容は、松柏類が奉納盆栽会(昭和四十七年結成、現会長田中一男)を結成し、毎年秋のこの時期と五月の連休時に「所蔵の盆栽を展示せし、広く一般に見せると共に、会員相互の親睦を計り、技術の交流、また一般の人々への盆栽に対する理解と技術指導」を目的として開催されている。

会場の大社祈願殿ロビーには、氏子愛好家の丹誠をこめた作品が、約五十席展された。内容は、松柏類を中心として小盆栽等種々展示された。

作品の質も回を重ねるごとに向上し、特に今回は雑誌によって全国に紹介され、注目をあつめた。

時期おりしも七五二と重なり、天候にも恵まれた為、着飾った幼子の手を引いた参拝者をはじめ、多数の観賞者で賑わった。

また近年は、宗像地区のベッドタウン化により、盆栽愛好家の増加、盆栽教室の増加によって展示会への出品は、次第に狭き門となっている。

今回は、第一回が昭和四十八年十一月に開催されて以来、十五回目にあたり、十一月三十日の反省会において、永い間、地道に奉仕してこられた役員に宮司より感謝状と記念品が贈呈された。引き続き懇親会が開かれ、出席者一同、十五年の歳月をふりかえり、なつかしく歓談した。

去る十一月二十六日午前九時、〇分より当大社齋館に於て、昭和六十二年度宗像の大祓式、古式祭、人形敷米袋布並取まとも方依頼等について、氏子評議員会を開催し、種々検討審議された。

当日は福岡県神社庁宗像支部の、神宮大藤宗像大社神符の頒布が午前十一時〇分より執り行われた。早い時間に開催されたため、かかわらず、河野氏子会長を始め四十五名の氏子評議員、神社側より養父宮司以下四名、氏子会代表三名の職員が出席し定刻通り開催された。

出光副会長の開会の辞に始まり、河野氏子会長長挨拶、

宗像地区開界の実力ナンバーワンを決める、宗像本因坊戦が、去る十一月一日(日)午前十時より、当大社清見殿、齋館に於て開催され、約百名のアマチュア棋士が参加、盤上での熱い戦いが繰り広げられた。

本大会の参加資格は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

宗像地区開界の実力ナンバーワンを決める、宗像本因坊戦が、去る十一月一日(日)午前十時より、当大社清見殿、齋館に於て開催され、約百名のアマチュア棋士が参加、盤上での熱い戦いが繰り広げられた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

評議員会開催

宗像大社氏子会

去る十一月二十六日午前九時、〇分より当大社齋館に於て、昭和六十二年度宗像の大祓式、古式祭、人形敷米袋布並取まとも方依頼等について、氏子評議員会を開催し、種々検討審議された。

当日は福岡県神社庁宗像支部の、神宮大藤宗像大社神符の頒布が午前十一時〇分より執り行われた。早い時間に開催されたため、かかわらず、河野氏子会長を始め四十五名の氏子評議員、神社側より養父宮司以下四名、氏子会代表三名の職員が出席し定刻通り開催された。

出光副会長の開会の辞に始まり、河野氏子会長長挨拶、

宗像地区開界の実力ナンバーワンを決める、宗像本因坊戦が、去る十一月一日(日)午前十時より、当大社清見殿、齋館に於て開催され、約百名のアマチュア棋士が参加、盤上での熱い戦いが繰り広げられた。

本大会の参加資格は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

宗像地区開界の実力ナンバーワンを決める、宗像本因坊戦が、去る十一月一日(日)午前十時より、当大社清見殿、齋館に於て開催され、約百名のアマチュア棋士が参加、盤上での熱い戦いが繰り広げられた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

本因坊戦は、宗像地域に居住する有段者に限られ、その中で九十名近くの一般選手によるリーグ戦で、十六名の自他共にその実力が認められた、トイ段クラスの選手によるトーナメントでの、本因坊戦が行われた。

年越の大祓式並に

除夜祭の御案内

昭和六十二年

歳を越え、皆様方には厳寒の中御多忙の御事と拝察申し上げます。扱て、恒例の年越の大祓神事並に除夜祭々典につき御案内申し上げます。

この神事は一年間の心身の罪・穢を人形に託して破い除き、清々しい気持ちで新年を迎える儀式であります。

又、除夜祭は一年の祭典の納めを神前に報告し御神徳に謝す祭典であります。本年も左記日程により、大祓式並に除夜祭を斎行致します。皆様方と御一緒にこれらの儀式・祭典に奉仕し、清き心で新年をお迎え致し度く、御参拝・御参列の御案内を申し上げます。

一、十二月三十一日 午後五時 年越の大祓式 引続き除夜祭斎行

一、皆様方に御送付申し上げました人形の赤白は、男女の区別を表わしたものであります。

男は白、女は赤に氏名・年齢を書き、息を吹きかけ、初穂料を添えられ十二月三十一日までに当大社へ到着すよう御返送下さい。

当大社責任役員

八波武氏急逝

当大社責任役員八波武氏(八十五歳)が去る十二月十三日逝去されました。氏は福岡市内に居住され、御尽力を賜りました。昭和五十八年四月より昭和六十年三月まで氏子会副会長を務められ、昭和五十八年四月に当大社責任役員に就任され、当大社はもとより神界の為、氏子の誇りをもって尽力され、多大な功績を残されました。ここに八波武氏の御逝去を悼み、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

神宮大麻並宗像大社

神符頒布祭齋行

神郡宗像の氏子総代百數十名参列

昭和六十三年の新春を迎えるにあたり、各戸に奉戴する神宮大麻並宗像大社神符の頒布祭を秋の取入れも終り、宗像の山野一面に黄色のミカンが色づく十一月二十六日、神郡宗像の総代百数十名集集の上、当社にて厳肅に式典を終了した。

当日、頒布祭にさきがけて午前九時半より宗像大社氏子評議員会を開催、特に広がり行く各地の氏子会対策について検討がなされ、新たに発足した東福岡団地の大曲委員より挨拶があった。又、十二月三十一日に行われる大祝式人形配額新穀奉献の件につき、依頼がなされ、全会一致で協力の決定が行われた。

神郡宗像の氏子総代百数十名参列の頒布祭は、当社社頭の祈願にて午前十二時三十分より齋行、越え奉戴の奉仕職職齋主大澄司以下奉仕職職参進、修験に引続き、神宮大麻が郡内各戸に配布される。此の間に、宗像の山野一面に黄色のミカンが色づく十一月二十六日、神郡宗像の総代百数十名集集の上、当社にて厳肅に式典を終了した。

国民全てが平和で豊かな生活が営まれるよう、又、病気が不測の事故がないようにと心のこもった社重祝詞が読まれた。玉串納付に続き、神宮大麻は宗像支部氏子総代会長長山下氏に齋主より授けられ、更に、宗像大社神符は、宗像大社氏子会々長河野幸人氏に授けられた。

第三十五期生二十四名

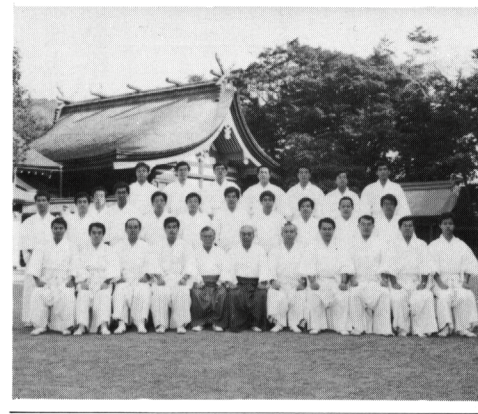
出光店主室教育 宗像研修報告

去る十一月十七日より二十日までの三泊四日に亘り、出光興産(株)店主室教育第三十五期生二十四名の宗像研修が行われた。

この研修は、昭和四十五年に出光店主室教育の中の宗像研修として、神社で白衣白袴による研修が始まったもので、今年で十七年の歴史をもつ研修である。

この研修を始めたのは、出光興産(株)創設者(故)出光佐三氏は経営学、経営方針の源に、神仏の教え、道を忘れることなく感謝の心を持って、と説かれていた。

この心を学ぶ一過程として、神社に参詣し、短期間ではあるが、日頃は別の生活に立つ研修は、当社儀式殿において行われた。白衣白袴着用による研修は初めての、平均年齢三十三才六ヶ月、勤務年数十年九ヶ月と云う若き社員受講である。



第三十五期生二十四名 出光店主室教育 宗像研修報告

りも重ねて挨拶がなされた。又、神宮より特に出された、伊勢神宮御遷宮に伴う御木曳行事の記録の御遷宮は千数百年前より二十年毎に一度、昭和六十八年に第六十一回の遷宮が行われる事に決まっているが、これに伴い、既に御神体を修める御船代舟木舟の御用材となる御木が遠く山部の御用材より運搬されてくるが、全戸に運搬に伊勢の住民が、すべて奉仕するの姿を想ひ出したもので、伊勢音頭を合せてのすまじいまでの熱誠は特に神宮ならではの圧巻でもあり、この映画により尚の御遷宮の意義を明確に知る事が出来たこと共、この御木曳に取組む伊勢市民の心意氣に参集者一同深く感銘を覚えた。

映画終了後、直会が行われ、郡内神職、氏子総代一体となり和氣あいあいの中、宗像大社神符と宗像大社神符の御神徳の発揚に、一層努力をされたこと力強く挨拶が行われた。

又、山下広徳総代会長、河野幸人宗像大社氏子会長より神宮大麻は、かつては、お初回は小さきかまどといふある姿勢であったが、日々重なるに及んで、白衣姿も板につき、早朝の清掃時など、参拝者より、「この青年神職会の人達ですか」と質問されるほどであった。

神前での拝礼作法、神庫へのお供え物の捧げ方、神前での拝礼作法、神社道の成立過程、日本民族と神道のかかわり等々、わずかの期間であったが、経験する別の世界を学び、見聞したことに、より、広い視野を持った出光人としての、認識を新たにしたようである。

研修を終えられた受講生一同より次の様なお礼が寄せられた。

拝啓、晩秋の候、兼父宮司様をはじめ皆様方におかれましては益々ご健康のこととお慶び申し上げます。さて、この度の店主室教育にあたりましては、ご多忙中

はらえ様」と稱され、江戸時代までは神宮祠官の手により全国に配られていたが、明治天皇の御思召により、民全てがお祭りし、大神の御神徳を戴き奉るようになったのであるが、戦後は神宮より神符、更に各戸に頒布されることになった。

宗像地方は、神郡宗像と稱され、地の民としての自覚により神宮大麻の頒布契機は全国でも例を見ない程の高位のものであったが、近年、急激な都市化に伴い、世帯数の増加に伴い、頒布率は県内でも最低に近い所まで落ち込んでいる。

この大規模な修築契機として、神郡宗像の多数の氏子各位が、神宮大麻を祀られ天照大神の御神威を仰ぎ、天照大神の御神徳の下、益々繁栄される事を期待するものである。

宗像大社の御神徳を仰ぎ、天照大神の御神徳の下、益々繁栄される事を期待するものである。

宗像大社の御神徳を仰ぎ、天照大神の御神徳の下、益々繁栄される事を期待するものである。

宗像大社の御神徳を仰ぎ、天照大神の御神徳の下、益々繁栄される事を期待するものである。

初回は小さきかまどといふある姿勢であったが、日々重なるに及んで、白衣姿も板につき、早朝の清掃時など、参拝者より、「この青年神職会の人達ですか」と質問されるほどであった。

神前での拝礼作法、神庫へのお供え物の捧げ方、神前での拝礼作法、神社道の成立過程、日本民族と神道のかかわり等々、わずかの期間であったが、経験する別の世界を学び、見聞したことに、より、広い視野を持った出光人としての、認識を新たにしたようである。

研修を終えられた受講生一同より次の様なお礼が寄せられた。

拝啓、晩秋の候、兼父宮司様をはじめ皆様方におかれましては益々ご健康のこととお慶び申し上げます。さて、この度の店主室教育にあたりましては、ご多忙中

名刀展を終えて

文化財管理事務局



十一月一日から十二月六日までの四十日間、宗像大社神宮にて「宗像名刀展」が行われた。境内に秋の彩る間、豊かな、薫り満ちた香を埋め尽くす西日本最大の菊花大会も、本年で第十七回目を迎へ、終日菊を愛する人々を魅了し、おかげを蒙り、お賑わいだった。

おかげを蒙り、お賑わいだった。

おかげを蒙り、お賑わいだった。

おかげを蒙り、お賑わいだった。

宗像名刀展「寄せて」

西日本菊花大会の名花咲き誇る宗像大社の神宮花に、宗像名刀展が盛装に開催されました。奉納刀の手入れを担当している私にとって望外の喜びとする所です。

奉納刀の手入れを担当している私にとって望外の喜びとする所です。

奉納刀の手入れを担当している私にとって望外の喜びとする所です。

奉納刀の手入れを担当している私にとって望外の喜びとする所です。

「宗像名刀展」に寄せて。西日本菊花大会の名花咲き誇る宗像大社の神宮花に、宗像名刀展が盛装に開催されました。奉納刀の手入れを担当している私にとって望外の喜びとする所です。

奉納刀の手入れを担当している私にとって望外の喜びとする所です。

奉納刀の手入れを担当している私にとって望外の喜びとする所です。

奉納刀の手入れを担当している私にとって望外の喜びとする所です。

社務日誌抄

十月一日 月次祭
第十五回宗像本因坊宗像名刀展開催(十二月六日迄)
十一月三日 明治祭
第十二回奉納剣道大会
第十四回奉納吟詠舞祭
和楽路会四十五名・遠賀町菊友会二十八名・熊本菊友会二十八名・十一月五日 古賀町老人会百名参拝
十一月六日 沖・中岡宮秋祭
十一月八日 宗像市「のぞみ園」のすのき園 津屋崎町「津屋崎園」新宮町、栗立福岡園「新宮町」(菊友会四十名参拝)
十一月十日 第十六回宗像大社秋祭短歌大会
十一月十四日 遠賀宗像会四周年記念式典(於遠賀町公民館)
十一月十七日 宗像市「のぞみ園」のすのき園 津屋崎町「津屋崎園」新宮町、栗立福岡園「新宮町」(菊友会四十名参拝)
十一月二十一日 宗像市「のぞみ園」のすのき園 津屋崎町「津屋崎園」新宮町、栗立福岡園「新宮町」(菊友会四十名参拝)

十月一日 月次祭
第十五回宗像本因坊宗像名刀展開催(十二月六日迄)
十一月三日 明治祭
第十二回奉納剣道大会
第十四回奉納吟詠舞祭
和楽路会四十五名・遠賀町菊友会二十八名・熊本菊友会二十八名・十一月五日 古賀町老人会百名参拝
十一月六日 沖・中岡宮秋祭
十一月八日 宗像市「のぞみ園」のすのき園 津屋崎町「津屋崎園」新宮町、栗立福岡園「新宮町」(菊友会四十名参拝)
十一月十日 第十六回宗像大社秋祭短歌大会
十一月十四日 遠賀宗像会四周年記念式典(於遠賀町公民館)
十一月十七日 宗像市「のぞみ園」のすのき園 津屋崎町「津屋崎園」新宮町、栗立福岡園「新宮町」(菊友会四十名参拝)
十一月二十一日 宗像市「のぞみ園」のすのき園 津屋崎町「津屋崎園」新宮町、栗立福岡園「新宮町」(菊友会四十名参拝)

宗像大社歌会 俳句作品集(一九七)

津屋崎 井浦 良介
初鴨山越えて来る母娘の歌

鐘崎 岩瀬 辰夫
喜怒よりも先づ健やかで年暮るる

鐘崎 久田 一保
菊香る社の隔の一輪華

福岡中央 力丸 玄風
笑りしは皇居銀杏の黄葉なる

池田 小田しめの
威し銃眠りの浅きまに出ず

藤沢 井上 玄洋
鳥翔ちてこそ紅葉を散らしけり

福岡町 廣渡一寿軒
湯気の立つ溝蓋猫の昼寝かな

カルストの羊百景花芒
花田いつえ

田熊 力丸 一郎
かれ滝に石落ぶきの金灯しけり

津屋崎 西住喜三郎
晩秋の色もつ柿の葉を拾ふ



〔案内〕 昭和六十三年 戊辰 正月祭 社頭授与品並に 諸祈願祭齋行

昭和六十三年正月に当大社の社頭において、参拝者の皆様に授与致します。神札・御守・縁起守並諸祈願祭を誌面を以て紹介申し上げます。

えと「一刀彫」

初穂料 一体二〇〇〇円也
この「一刀彫」は、当大社が毎年元旦を期して社頭に授与している縁起守でその年の

十二支を「桶の木」を材料に用い、伊勢の名匠に特別に制作を依頼しています。十二支の第五番目、辰は本来龍ではないが、十二支の動物を配した時、龍に配せられ、辰龍となりま

る。龍はもと古代中国で興った想像上の動物で、四霊或は四神と称した麟、鳳、亀、龍の内の一で、方角では北を護る霊神とされました。説

文」という中国の辞書には「魚虫等の長で幽細大長短自由にして、春は天に昇り、秋は淵に潜む」と見えます。その形は、大蛇に似て背に八十一の鱗あり、四足に各五本の指爪、頭に二本の角を有し、面長く耳あり、口辺に長髭が生え、首に五色の玉をもつと言われています。これは中国に於て作り上げられた靈獣であって、そのイメージは恐らく雲であり、風雨司とする農民の生活に結びついた靈獣と考えられたのでしよう。

辰年が威勢のよい年とされるのも、絵画などにも見られる龍の姿形から来たものと思われま

えられ、その「えと歳」生まれの年男・年女の方々が「えと守」として受けられ、以降毎年授与希望されています。この「辰一刀彫」を来年の元旦に皆様に授与致します。本年夏頃より伊勢の彫師に依頼していますが一日に十位しか彫り上げる事が出来ないとのことで、十二月末に約一八〇〇体しか納入出来ません。例年多くの方々が授与希望されていますが、正月三ヶ日の間で授与されていますのでご希望の方は早めに来社されて授けて下さい。

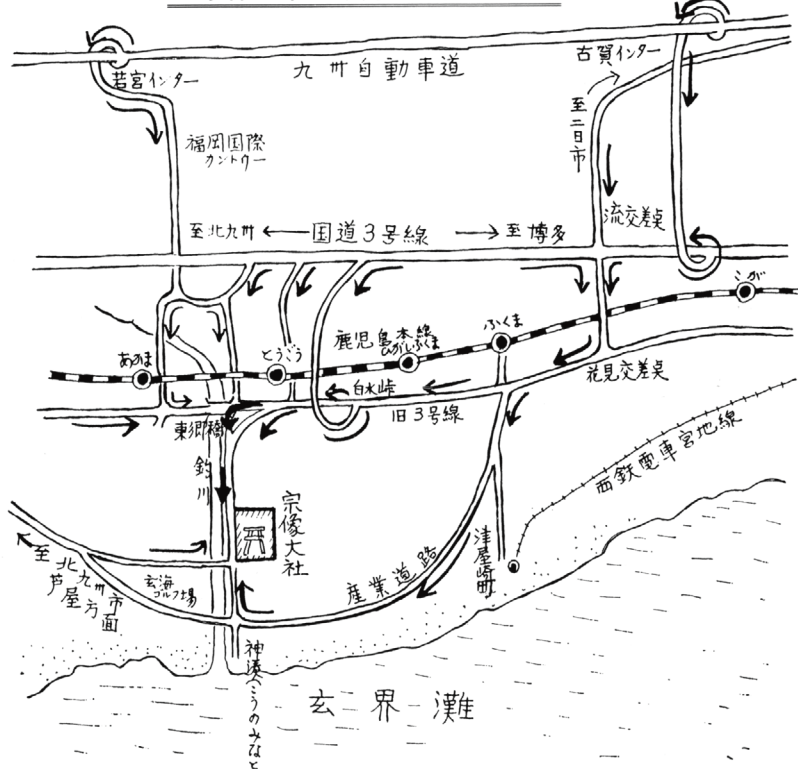
宗像大社「祭り暦」
初穂料 一部三〇〇〇円也
この「祭り暦」は当大社の主な祭典行事を皆様に理解していただく為に調整致しております。昭和六十三年の「祭り暦」は当大社で行われている年間祭典の内、新年祭・節分・春季大祭・沖津宮現地大祭・夏越祭・海上神幸など主要祭典行事を写真製版で記載し、各説明文並びに毎月の祭典・催しを列記しています。その下に、七曜・六曜を配した日数を、基盤目型の型枠にし月表に記載した、丈24cm・巾16cmの短冊型、吊り下げ形式で、家の柱に装着できるようコンパクトにまとめています。

正月社頭授与の主要神符・守札・縁起守・諸祈願祭の紹介
交通安全守
当大社で授与致している特殊自動車用守から自転車用守まで授与致しております。初穂料 一体一、〇〇〇円

から三〇〇〇円迄
◇家庭・事業所神使神札守
伊勢の神宮大社・宗像大社神符・木札守等授与致しております。
初穂料 一体一〇、〇〇〇円から三〇〇〇円迄
◇身体守
災難厄除・学業成就・縁結・無病息災等の守札を授与致しております。
初穂料 一体一、〇〇〇円から三〇〇〇円迄
◇縁起守
ハマ矢・カブラ矢・福迎・縁起土鈴・そと土鈴・絵馬・えと絵馬等の守札を授与致しております。
初穂料 一体三、〇〇〇円から五、〇〇〇円迄
昭和六十三年正月諸祈願祭典につきましては、下記に依り執り行いますので、皆様方の御家族・会社・事業所・個々人の新年の祈願祭を執り行われますよう御案内申し上げます。

前に申し出願願います。
（授与品）前項に準じ授与を致します。
※会社・団体の業務繁栄、業務安全、商売繁昌、海上安全、大漁祈願祭等
祭典場所 於本殿又は儀式殿
祭典料 一人又は一件、一、折願祭一件
一、〇〇〇円以上
（授与品）一件に付特別祈願祭 祭典御幣一本、神酒一本、授与致します。
※家庭・個人の家内安全、商売繁昌、交通安全（車輛なし）
祭典場所 於儀式殿
祭典料 一人又は一件、五、〇〇〇円以上志しに神納願願います。
（授与品）一件又は一人、一、折願祭一件
一、〇〇〇円以上
につき、願意による御守札を一本、玉串御幣一本、祭り暦一部、撤下神饌一袋を授与致します。以上

宗像大社正月参拝案内図



宗像大社辺津宮境内図



宗像大社までは
●赤間駅からバスで二十五分
●東郷駅からバスで十分

注意事項
●駐車禁止
●車両通行止
●歩行者天国